**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　　日本を愛することが世界を愛すること**

**お名前：　　　南裕香梨**

(下記より本文をご記入ください)

私は日本人でありながら、自分の国を愛せずに生きてきました。日本を誇る気持ちも、尊敬する気持ちも持てないまま、この国を脱出したいと思っていました。

　どうしてそんな思いで生きてきたのか、今になって分かってきました。そして日本を愛せるようになった幾つかのエピソードの内二つだけ選んで書いてみたいと思います。

25歳の頃１年半ほどアメリカ西海岸で生活する機会がありました。明るくて、世界中の人種の集まる刺激的な国、広大な土地で出会った景色も狭い日本で見たそれとは比べ物にならないスケールと美しさでした。何よりクリスチャンの自分には神様の話を誰とでも当たり前に話せることが嬉しくてなりませんでした。

ところが30歳で再び訪れたアメリカでは各家庭を訪問し、色々な家庭の事情に触れて胸を痛めることが多くありました。離婚も多い上に、離婚再婚を繰り返して父親が何人いるのか分からない子供たち、ハウスエリアでも場所によってはごみだらけ、何より治安が悪くて銃声が響いて暫く物陰に隠れていなければならないこともしばしばありました。鉄格子みたいな処から店主が応対している商店もあり、東洋人の私が歩いているだけで通報されることもありました。

　それでも私はアメリカが好きで今でも行ってみたい国です。しかし日本に戻ってきたときの幸福感は、日本を出てみないと味わえないものでした。言葉の通じる安心感はもちろん、客に対する接し方がまず違います。日本の接客は世界でもピカイチではないでしょうか。日本の道路も本当にきれいです。ボランティア清掃しても、ほとんど拾うごみがないほどです。水道水を安心して飲める国も多くはありません。勿論良い面ばかりではありませんが、それでも多くの国民は平和を愛し求め、そのために努力していると感じます。

　どうして今までそんな日本を、自分の祖国を私は愛せなかったのでしょう。一因は文化共産主義の考え方に知らない間に毒されていたからではと思うのです。学校の教育でも、本を読んでも、テレビを観ても、私が小さい時から接してきたものはなんとなく日本、嫌だな、と思わされるものでした。

そして特に自分が嫌悪していたものは軍国主義でした。小さい時は今以上に戦争の話は身近で、戦争に行った祖父のことさえ私はあまり尊敬の念もなく、祖父の戦争話は避けていました。

　しかし最近になって祖父の残した自叙伝を読み、祖父は命がけで国を家族を守ろうとしたことが分かりました。そして戦場で敵軍兵士にも情けをかけていたようです。ばったり出くわした兵士があまりにも若くて撃つことを止め、見逃したり、オランダ人の捕虜収容所ではそれぞれの得意な事、好きな事をある程度自由にさせてあげていたようです。その時オランダ人の画家が祖父の写真と日本に残してきた家族の写真を合わせて描いてくれた絵が80年を超えて我が家に残っています。

　終戦を迎え、なんとか生きて帰国したものの、数年後に何度か戦犯の疑いをかけられ東京で取り調べを受けましたが、祖父を助けてくれたのはオランダ人兵士の証言でした。渡辺大尉は自分たちに良くしてくれた、戦犯などではないと。

　これは極一部ですが、厳しい戦場でも人間の尊厳を守って生きてきたのだと感動しました。

そして、自分を本当に愛せないものは他人も愛せないように、自分の国を真から愛せないものは他国、世界を愛せないのではないかと思うようになりました。

　神様が創造された世界は、本来どれほど美しいかわかりません。その本然の姿を取り戻すために、私は自らを尊く思い、他人との壁、国の壁を乗り越えていきたいと思います。